

しが国際協力親善大使レポート

いいぬま こうき
飯沼 昂貴さん

隊次：2018年度2次隊

職種：コミュニティ開発

派遣国：サモア

自己紹介

湖南省出身の飯沼昂貴です。大学卒業後、民間企業に就職しましたが半年で退職し青年海外協力隊に参加しました。

コミュニティ開発隊員として2018年10月下旬にサモアへ派遣され、現地訓練を経て12月より国連開発計画（UNDP）サモア事務所で活動中。

任期は2020年10月まで。

活動されている国、地域の気候や文化の紹介

私が派遣されているのは南太平洋に浮かぶ小さな島国、サモアという国です。南国という言葉がぴったり当てはまりそうなサモアは気温は非常に高く、湿度も高いです。特に現在は雨期という事もあり、日本の夏のような心地がします。少し歩くと全身汗をかくような気候が最近は続いています。

サモアの人たちは非常に温厚で、道であいさつをすると笑顔で皆さん返してくれます。年上の方を敬う部分など、日本と通ずる部分も少なからずあり非常に興味深いです。

活動や生活について

私の配属先は、国連開発計画（UNDP）という国連機関のサモア事務所です。活動が始まってまだ1か月足らずなのですがその短い中で感じたことをできる限り紹介していきます。

サモアにきて最初の1か月は現地訓練の期間とされ、サモア語などを勉強します。現地訓練の中にビレッジステイというプログラムがあり、隊員は1週間サモアの伝統的な生活や文化を身をもって体験するためにホームステイをします。親戚などと住む大家族が多いサモアでは1つの家に10人程度の方が住んでいることも珍しくありません。ステイ初日に驚いたことは、夜ご飯を食べるときに私はてっきり皆で食卓を囲むのかと思いきや、ゲストである私と年配のステイ先の家族が先に食事をとり、子供たちはその周りでうちわでハエが来ないように扇いでいました。子供たちに申し訳ない気持ちになったこの経験ホームステイならではの体験であると思います。キリスト教国家のサモアでは日曜日は休日とされており、お店はもちろん、畑仕事や小さなことも禁止されています。日曜日にステイ先の庭で子供たちとボールを蹴って遊んでいると注意されたことも記憶に新しいです。

一方、配属されてからはゆっくりとした村での生活とは打って変わり、非常にバタバタした1か月を送っています。配属先が国際機関という事もありサモアだけでなくニュージーランド・フランス・イギリス・オーストラリア・チリなど様々な国の人がいます。UNDP サモア事務所の中はゆっくりと時間が流れるサモアとは少し違い、皆忙しそうに働いています。特に私が配属されたのは年度末で自分が携わるプロジェクトの決算期という事もありバタバタしている時期だったので余計にそう感じたのかも

しれません。忙しい中でも、誰かがいきなりココ・サモア（サモアの伝統的な飲み物）を持ってきて皆仕事を中断し楽しむ、というサモアっぽい部分も垣間見れます。

まだ配属されて1か月も経っていませんが、サモアという非常に温厚な気候、人々と共に日々生活をし、サモアの文化を肌で感じることができると同時に、UNDP という機関に属し、国連機関を内部から見る機会に恵まれとてもうれしく思います。



集合写真

しが国際協力親善大使レポート

いいぬま こうき
飯沼 昂貴さん

隊次：2018年度2次隊

職種：コミュニティ開発

派遣国：サモア

自己紹介

大学を卒業後、メーカーに就職したのちに青年海外協力隊へ応募。2018年10月から南太平洋の島国サモアにてコミュニティ開発ボランティアとして活動。配属先は UNDP サモア（国連開発計画サモア事務所）で地域団体に向けた環境問題に対する無償資金援助プログラムに携わる。

サモアについて

私が活動している国は、南太平洋に浮かぶ小さな島国、サモア独立国です。最近では2019年9-10月に行われたラグビーワールドカップで日本と同じプールに所属し、試合もしたため名前は聞いたことのある人もいるのではないのでしょうか。サモアは南国という言葉がそのまま当てはまるような国です。ヤシの木がたくさん生えており、美しい海、ビーチがあります。日本にいるときよりも時間がゆっくり流れているのではないかと錯覚するくらいのんびりとした雰囲気があります。

活動や生活について

私が配属されているのは国連開発計画（UNDP）という国連機関のサモア事務所です。その中で私は環境問題を解決するための無償資金援助のプログラムに携わっています。地域 NGO または地域団体に資金を提供し、その資金で団体は地域の環境を保護し、また地域民のエンパワメントに貢献できるプロジェクトを地域民が行います。1つ例を挙げてみると、マングローブ保護・植林プログラムがあげられます。海辺にある村のマングローブを保護、植林することで地域の海の生態系を保護するだけでなく、津波やサイクロンが来たときにマングローブが波から村を守ってくれます。このように村レベルでプロジェクトを行い環境問題の解決に向けて取り組みます。

活動ではプロジェクトの運営に一通り携わり、評価レポートの作成、資金提供先とのミーティング、環境省との会議、資金提供の支払い、UNDP 本部とのやりとりなど様々です。多くの役割がある中で私の1番好きな仕事内容は実際にプロジェクトの現場へ行き、経過観察をし、実際の村人から話を聞くことです。やはりオフィスでプロジェクトの報告書を読んでいるだけではイメージが付きにくいので自分で見て、感じて、話を聞くことでより理解が深まります。また現在サモアでは約50のプロジェクトがあり、視察のためにサモアの様々な場所へ出向けるのも良い経験です。

現在、全世界で地球温暖化が話題となっており、太平洋州の島国は温暖化による被害を1番深刻に受ける地域です。実際に海辺に面する村へ行き、海面上昇により海の水が陸へ浸食している場所を教えてもらったときは、テレビや新聞で報道されていることは現実で、自分が現在住んでいる国はその真ん中にあるのだと実感しました。残りの任期も精一杯活動し、より良いサモアにするために少しでも立てたらと思います。



プラスチック使用禁止を訴える NGO の方との写真



融資金で作られたゴミスタンドの前でマネージャーとの写真



サモアの美しい朝